

「新潟県病院事業の取組方針」に関する
平成 30 年度の取組状況と評価 [事業会計全体] (案)

令和元年 11 月 6 日

新潟県病院局

評価の基準

I 自己評価

(1)指標・取組ごとの点数つけ

事業会計全体の各指標の達成状況及び主な取組結果について、次の基準により4段階で点数つけ。

評点	基準
3	達成状況が 110%以上
2	達成状況が 100%以上 110%未満
1	達成状況が 90%以上 100%未満
0	達成状況が 90%未満

(2)評価項目ごとのランクつけ

評価項目ごとに、上記の点数の平均を算出後、項目全体として、次の基準により4段階でランクつけ。

ランク	基準
S (十分な成果がある)	各項目の点数の平均が 2.5 以上
A (一定の成果がある)	〃 2.0 以上 2.5 未満
B (成果はあるがまだ不十分)	〃 1.5 以上 2.0 未満
C (あまり成果がない)	〃 1.5 未満

II 客観的評価

評価項目ごとの判定は、自己評価を踏まえ、項目全体として、次の考え方により4段階で判定。

判定	考え方
◎	十分な成果がある
○	一定の成果がある
△	成果はあるがまだ不十分
×	あまり成果がない

【様式 1】

1. 医療機能等に関する事項

① 県民から信頼される病院づくり

		H29年度 (実績)	H30年度 (目標)	H30年度 (実績)	達成状況 (実績/目標)	点数
信頼される 病院づくり のための調査	県立病院の信頼性	70.7%	74.0%	77.9%	105.3%	2
	うち過去3年以内 利用者の信頼性	86.4%	90.0%	83.3%	92.6%	1
	病病・病診連携の対応への満足度(医師) (隔年実施のため点検・ 評価対象外：H31実施)	90.0%	—	—	—	—
職員満足度		(H28調査) 76.5%	78.0%	75.7%	97.1%	1
病院機能評価認定病院数		4病院	5病院	4病院	80.0%	0

【自己評価】

【平均点】 1.0	【評価コメント】 「県立病院の信頼性」は、平成29年度調査に比べ12病院で改善し、事業会計全体では7.2ポイント改善して77.9%となり、目標に対する達成状況は105.3%となった。 <u>引き続き、BSCを活用した取組等を強化するなど信頼性の向上に一層努めていきたい。</u>
【評価ランク】 C	「職員満足度」は、平成28年度調査に比べ4病院で改善したものの、事業会計全体では0.8ポイント低下して75.7%となり、目標に対する達成状況は97.1%となった。 <u>引き続き、県立病院職員の満足度向上に努めていきたい。</u>
	「病院機能評価認定病院数」は、平成29年度と変わらず4病院であり、目標に対する達成状況は80.0%となった。 <u>目標達成を目指し、引き続き受審を促進していきたい。</u>

【客観的評価】

【委員会判定】 △	【評価コメント】
------------------	----------

【様式 2】

1. 医療機能等に関する事項

② 研修教育機能 [基幹型臨床研修病院]

	H29 年度 (実績)	H30 年度 (目標)	H30 年度 (実績)	達成状況 (実績/目標)	点数
次年度初期臨床研修医採用予定者数	19 人	20 人	19 人	95.0%	1
学生等の病院実習受入数	153 人	100 人	335 人	335.0%	3
学生等の病院見学受入数	73 人	68 人	123 人	180.9%	3

【自己評価】

【平均点】 2.3	【評価コメント】 「次年度初期臨床研修医採用予定者数」は、病院の特性や県立病院のネットワークを活かした魅力ある研修プログラムづくりや合同ガイダンスなどへの積極的な参加、病院実習や病院見学の受入れなど PR に取り組んだものの、平成 29 年度実績と同数の 19 人となり、目標に対する達成状況は 95.0%となった。 「学生等の病院実習受入数」は、教育研修センターを設置した新発田病院で大きく増加したため、平成 29 年度実績に比べ事業会計全体では 182 人増加して 335 人となり、目標に対する達成状況は 335.0%となった。
【評価ランク】 A	「学生等の病院見学受入数」は、教育研修センターを設置した新発田病院で大きく増加したため、平成 29 年度実績に比べ事業会計全体では 50 人増加し 123 人となり、目標に対する達成状況は 180.9%となった。 <u>引き続き、研修プログラムの充実や PR に取り組むとともに、新発田病院に設置している教育研修センターのセンター機能を活かして県立病院の研修環境の充実を図り、臨床研修医等の確保・受入れに取り組んでいきたい。</u>

【客観的評価】

【委員会判定】 ○	【評価コメント】
-------------------------	----------

【様式3】

2. 収益的収支に関する事項

① 経営指標の状況

	H29年度 (実績)	H30年度 (目標)	H30年度 (実績)	対前年度比較		目標達成状況	
				増減額	増減率	達成額	達成率
病院事業収益	71,497	70,656	72,130	633	100.9%	1,474	102.1%
医業収益	57,897	57,746	57,882	▲15	100.0%	136	100.2%
診療収益	56,712	56,517	56,759	47	100.1%	242	100.4%
(入院収益)	36,809	36,689	36,310	▲499	98.6%	▲379	99.0%
(外来収益)	19,904	19,828	20,450	546	102.7%	622	103.1%
その他医業収益	1,184	1,229	1,122	▲62	94.8%	▲107	91.3%
医業外収益	13,600	12,910	14,248	648	104.8%	1,338	110.4%
(一般会計繰入金)	11,114	10,672	11,687	573	105.2%	1,015	109.5%
(長期前受金戻入)	1,721	1,403	1,664	▲57	96.7%	261	118.6%
特別利益	0	0	0	0	-	0	-
病院事業費用	72,281	71,809	73,931	1,650	102.3%	2,122	97.1%
医業費用	69,981	70,402	71,362	1,381	102.0%	960	98.7%
給与費	37,433	37,785	38,426	993	102.7%	641	98.3%
(退職給付費)	2,213	2,805	2,627	414	118.7%	▲178	106.3%
材料費	18,359	17,924	18,731	372	102.0%	807	95.7%
経費	9,158	9,681	9,300	142	101.6%	▲381	103.9%
減価償却費	4,582	4,375	4,385	▲197	95.7%	10	99.8%
資産減耗費	98	254	123	25	125.5%	▲131	151.6%
研究研修費	351	383	396	45	112.8%	13	96.7%
医業外費用	2,129	1,407	2,167	38	101.8%	760	64.9%
(企業債利息)	904	841	821	▲83	90.8%	▲20	102.4%
特別損失	171	0	402	231	235.1%	402	0.0%
医業損益	▲12,084	▲12,656	▲13,480	▲1,396	88.4%	▲824	93.5%
経常損益	▲613	▲1,153	▲1,399	▲786	▲28.2%	▲246	78.7%
純損益	▲784	▲1,153	▲1,801	▲1,017	▲29.7%	▲648	43.8%

※退職給付費に退職給付引当金を含む
 ※小数点以下の端数調整のため、合計が一致しない場合がある。

	H29年度 (実績)	H30年度 (目標)	H30年度 (実績)	対前年度比較		目標達成状況		点数
				増減数	増減率	達成数	達成率	
医業収支比率	82.7%	82.0%	81.1%	▲1.6ポイント	98.1%	▲0.9ポイント	98.9%	1

【自己評価】

<p>【評価ランク】</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">C</p>	<p>【評価コメント】</p> <p>平成 29 年度実績に比べ、医業収益は、診療内容の充実等による診療単価が増加した一方で患者数が減少したこと等から、同程度となったが、医業費用は、退職者数の増加に伴う退職給付費の増加や給与の増額改定等による給与費の増加、高額薬品使用の増加による材料費の増加などにより増加した。その結果、医業損益は 1,396 百万円悪化した。</p> <p>医業収支比率は 81.1%となり、目標に対する達成状況は 98.9%となった。</p> <p><u>平成 30 年度の収益的収支全体の決算としては 3 年連続の赤字決算となり、経常収支が平成 21 年度以来 9 年ぶりに 10 億円以上の赤字となる等純損益が大幅に悪化した。</u></p> <p><u>これにより、都道府県立病院としては稀な資金不足比率が発生することになり、今後も患者数の減少や診療報酬のマイナス改定、人件費や高額薬品使用の増加などが続くとした場合には、さらに資金不足比率の上昇による起債許可制への移行や、内部留保資金の不足が想定される等、病院事業会計は危機的な状況にあり、これまで以上の経営改善が急務と認識している。</u></p> <p><u>引き続き、患者確保や診療単価増加による収益の確保とともに、給与費の抑制や材料費等の費用の合理化に努め、医業収支比率の向上を図るとともに、県立病院経営委員会の提言や行財政改革行動計画、国からの再検証要請等を踏まえ、県立病院が果たすべき役割に重点化を図ることを基本に、具体的なあり方や機能・規模について検討していきたい。</u></p>
---	--

【客観的評価】

<p>【委員会判定】</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">△</p>	<p>【評価コメント】</p>
---	-----------------

【様式 4】

2. 収益的収支に関する事項

② その他経営指標の状況

	H29年度 (実績)	H30年度 (目標)	H30年度 (実績)	対前年度比較		目標達成状況		点数	
				増減数	増減率	達成数	達成率		
経常収支比率(%)	99.1	98.4	98.1	▲1.0ポイント	99.0%	▲0.3ポイント	99.7%	1	
職員給与費対医業収益比率(%) (実績の方が低いと達成)	64.7	65.4	66.4	▲1.7ポイント	97.4%	▲1.0ポイント	98.5%	1	
病床利用率(%)	76.3	78.5	75.2	▲1.1ポイント	98.6%	▲3.3ポイント	95.8%	1	
入院診療単価 (円)	広域基幹病院 専門病院(がんセンター)	59,648	58,900	60,820	1,172	102.0%	1,920	103.3%	2
	地域中核病院	39,785	39,200	41,148	1,363	103.4%	1,948	105.0%	2
	地域医療病院(100~199床) 専門病院(リウマチセンター)	34,482	33,500	34,906	424	101.2%	1,406	104.2%	2
	地域医療病院(100床未満)	28,096	28,600	27,572	▲ 524	98.1%	▲ 1,028	96.4%	1
	専門病院(精神医療センター)	17,585	17,900	17,743	158	100.9%	▲ 157	99.1%	1

【自己評価】

<p>【平均点】</p> <p>1.4</p>	<p>【評価コメント】</p> <p>「経常収支比率」は、平成 29 年度実績に比べ、一般会計繰入金が増加したものの、医業損益が大きく悪化した結果、経常損益は 786 百万円悪化し、経常収支比率は 1.0 ポイント悪化して 99.0%となり、目標に対する達成状況は 99.7%となった。</p> <p><u>今後は、効率的な運営により医業損益の改善に努めたうえで、病院負担が困難である経費等について一般会計繰入金を受けつつ、経常収支比率の向上を図っていききたい。</u></p>
<p>【評価ランク】</p> <p>C</p>	<p>「職員給与費対医業収益比率」は、退職者数の増加に伴う退職給付費の増加や給与の増額改定等による給与費の増加により、平成 29 年度実績に比べ 1.7 ポイント悪化して 66.4%となり、目標に対する達成状況は 98.5%となった。</p> <p><u>引き続き、患者確保や診療報酬制度に即した医業収益の確保を図るとともに、病床機能・規模の適正化や委託可能な業務の検討等を通じた給与費の抑制に努め、職員給与費対医業収益比率の抑制を図っていききたい。</u></p>

	<p>「病床利用率」は、入院患者数が減少したことから、平成 29 年度実績に比べ 1.1 ポイント悪化して 75.2%となり、目標に対する達成状況は 95.8%となった。</p> <p><u>引き続き、病床機能・規模の適正化とともに、地域の医療機関等との連携強化により患者確保に努め、病床利用率の向上を図っていききたい。</u></p> <hr/> <p>「入院診療単価」は、平成 29 年度実績に比べ、広域基幹病院と専門病院（がんセンター）では入院料、手術麻酔料、注射料の増により 1,172 円増加、地域中核病院（十日町病院）では入院料の増により 1,363 円増加、地域医療病院（100～199 床）と専門病院（リウマチセンター）では入院料の増により 424 円増加、地域医療病院（100 床未満）では入院料、検査料等の減により 524 円減少、専門病院（精神医療センター）では入院料、精神科専門療法料の増により 158 円増加となり、目標に対する達成状況は地域医療病院（100 床未満）、専門病院（精神医療センター）を除き 100%超となった。</p> <p><u>引き続き、診療報酬制度を踏まえ、各病院の機能・規模に応じた診療単価の目標を設定し、適正な入院診療単価の確保を図っていききたい。</u></p>
--	--

【客観的評価】

<p>【委員会判定】</p> <p style="text-align: center;">△</p>	<p>【評価コメント】</p>
---	-----------------

【様式 5】

3. 総合評価

【事業会計全体】

自 己 評 価	<p>(1) 平成 30 年度の取組状況</p> <p>少子高齢社会の進展、疾病構造の変化、健康意識の向上及び医療の高度化・専門分化などの医療環境の変化に対応して、高度で良質な、安全で安心な医療の提供が求められているなか、「県民から信頼される病院づくり」をビジョンに掲げ、県民に安全で安心できる県民医療の提供に努めた。</p> <p>① 経営改善の推進</p> <p>緩和ケア病棟工事に伴う病棟閉鎖や医師の減、在院日数の短縮から、前年度に比べ入院患者数は 25,010 人減少し、外来患者数は 13,397 人減少して、合計患者数は 197 万 6,219 人となった。</p> <p>このような状況の中で、医業収益については、地域の医療ニーズを踏まえ、診療報酬制度に沿った診療内容の充実による収入の確保に取り組み、診療収入単価の増加を図った。また、医業費用については、費用の効率的な執行等に努めたものの、退職者数の増加に伴う退職給付費の増加や給与の増額改定等による給与費の増加や高額薬品使用の増加による材料費の増加などにより増加した。</p> <p>このほか、医業損益悪化に伴う一般会計繰入金の増加により医業外収益が増加したものの、旧小出病院の固定資産の除却等に係る特別損失を計上したことから、純損益は前年度から 1,017 百万円悪化し、1,801 百万円の赤字決算となった。</p> <p>② 経費等の節減</p> <p>後発医薬品への切り替えや県立病院のスケールメリットを生かした共同購入等による薬品費、診療材料費の合理化等を図った。</p> <p>③ 経営の安定化</p> <p>多角的な視点での戦略目標を示す B S C (バランスト・スコアカード) を全病院で活用するとともに、全職員が一丸となって患者に信頼される病院づくりに取り組んだ。</p> <p>(2) 今後の重点取組</p> <p>人口減少による患者減少や、医師の不足・偏在の進行など厳しい医療環境などにより病院事業は危機的な経営状況にあり、県立病院が果たすべき役割・機能にも支障を生じかねないと考えている。</p> <p>このため、県立病院経営委員会の提言や行財政改革行動計画、国からの再検証要請等を踏まえ、県立病院が果たすべき役割に重点化を図ることを基本に、具体的なあり方や機能・規模について検討するとともに、経営改善に向けて、最大限収益を向上し、費用を縮減するため、緊急的に取り組む具体的な事項を整理し、可能なものから速やかに実行に移すなど、持続可能な県立病院の経営を確保するよう努める。</p>
------------------	--

客觀的評價

【信頼される病院づくり調査の概要】

【調査目的】

新潟県病院局では、県立病院のビジョンである「県民から信頼される病院づくり」に向けて、「県民から信頼される病院づくりのための調査」として、住民ニーズ調査を毎年、医療関係者調査と職員意識調査をそれぞれ隔年で実施。

※リウマチセンター、精神医療センターは、住民ニーズ調査を独自に実施

1 住民ニーズ調査

- (1) 調査対象：新潟県立病院圏域内に居住する満 20 歳以上の男女個人
- (2) 抽出方法：各市町村の選挙人名簿からの系統無作為抽出
- (3) 調査方法：郵送調査
- (4) 調査期間：H29. 10. 5～10. 20, H30. 8. 10～8. 27
- (5) 回答者数：H29 2,209 人（回収率 42.5%）， H30 1,976 人（回収率 38.0%）

2 医療関係者調査（医師）

- (1) 調査対象：新潟県立病院と連携する新潟県内の医療機関に勤務する「医師」
- (2) 抽出方法：医療従事者リスト等からの無作為抽出
- (3) 調査方法：郵送調査
- (4) 調査時期：H29. 10. 5～10. 20
- (5) 回答者数：H29 255 人（回収率 63.4%）

3 職員満足度調査

- (1) 調査対象：新潟県立病院全職員
- (2) 調査方法：各病院にてアンケート用紙を配布・回収
- (3) 調査期間：H28. 9～10 月, H30. 8 月
- (4) 回答者数：H28 3,713 人（回収率 86.8%）， H30 3,789 人（回収率 80.3%）